

【大綱 5】

魅力ある資源を活かし、 都市の活力を創造するまちづくり

(産業・雇用、観光など)

- 5-1 地域社会を支える産業の活性化を図る
- 5-2 魅力と活力でライフスタイルを豊かにする
- 5-3 持続的に農業が行われる環境をつくる
- 5-4 だれもがいきいきと働ける地域社会をつくる

5-1 地域社会を支える産業の活性化を図る

■めざす姿(5年後の状態)

将来にわたって持続可能な、地域社会を支える産業活動が行われている

時代の変化にあわせた計画的な産業支援の充実により、経済・産業構造の変化にも的確に対応し、将来にわたって持続可能な、地域社会を支える産業の活性化を目指します。

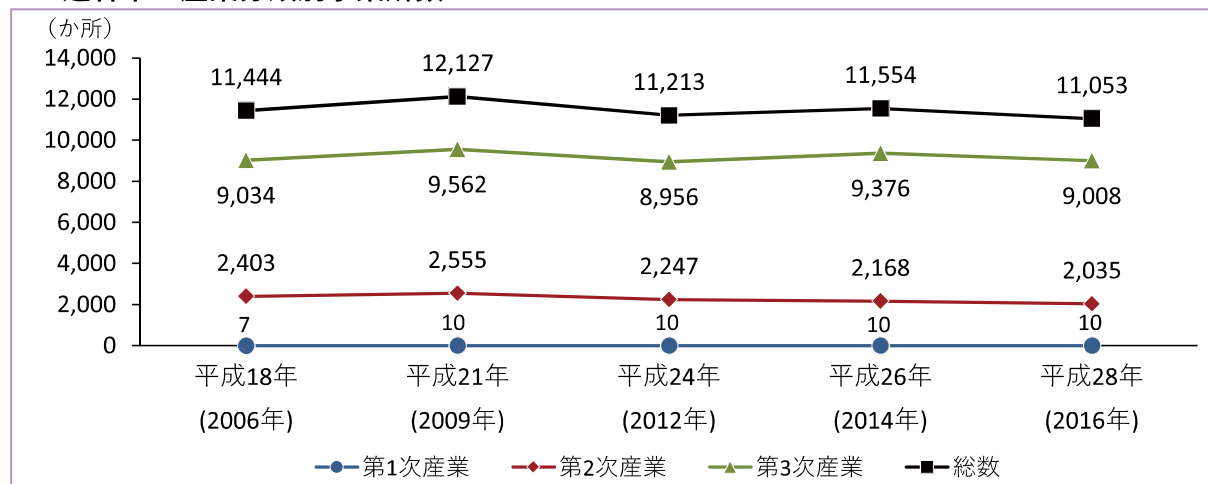
具体的には、中小企業への経営支援の充実や地域経済の循環を促進する支援を行うほか、将来へ向けて産業の担い手となる創業者等への支援と新たな産業の育成に努めます。

さらに、商店街団体・商業者への支援と、特色ある地域資源を活かした、にぎわいづくりによる魅力ある商業の振興のほか、伝統的地場産業を含めた優れたものづくり技術への支援を行うとともに、本市の地理的特性を活かした企業立地を促進することで魅力ある工業の振興を目指します。

現状

- 地域経済を取り巻く環境は、人口減少・少子高齢化の進行による人手不足や国内需要の縮小、情報技術の革新による経済のグローバル化や商習慣・ビジネスモデルの転換など、経済・産業構造の急激な変化のなかにあり、引き続き厳しい状況が続くものと考えられます。
- 市内企業の多くが中小企業であり、業種としては第3次産業が最も多く、次いで第2次産業が多い状況ですが、経営者の高齢化や産業構造の変化などにより、事業所数は減少傾向にあります。
- 市内商業(卸売業・小売業)の現状は、平成28年(2016年)経済センサス-活動調査によると、商店数は2,397店、従業者数は21,992人、年間商品販売額は約8,225億円となっています。
- 市内工業の現状は、令和元年(2019年)工業統計調査(従業者4人以上の事業所が対象)によると、事業所数は365事業所、従業者数は8,722人、製造品出荷額等は約2,258億円となっています。

■越谷市の産業分類別事業所数



資料：事業所・企業統計調査(平成18年)、経済センサス基礎調査・活動調査(平成21年以降)を基に作成



■めざす姿に関連する達成指標

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
市内総生産の伸び率	7.4% (平成29年度)	5.0%
〔説明〕1年間に市内の生産活動によって新しく生み出された価値の総額(産出額から中間投入額を除いたもの)の5年間の伸び率について、年間1.0%の増加とし、5.0%を目標とする。		
「業況が良い」と判断する企業の割合	13.9%	14.5%
〔説明〕市内事業者に対して実施する景気動向調査における「業況」の項目で、「良い」と判断した企業の割合について、14.5%を目標とする。		

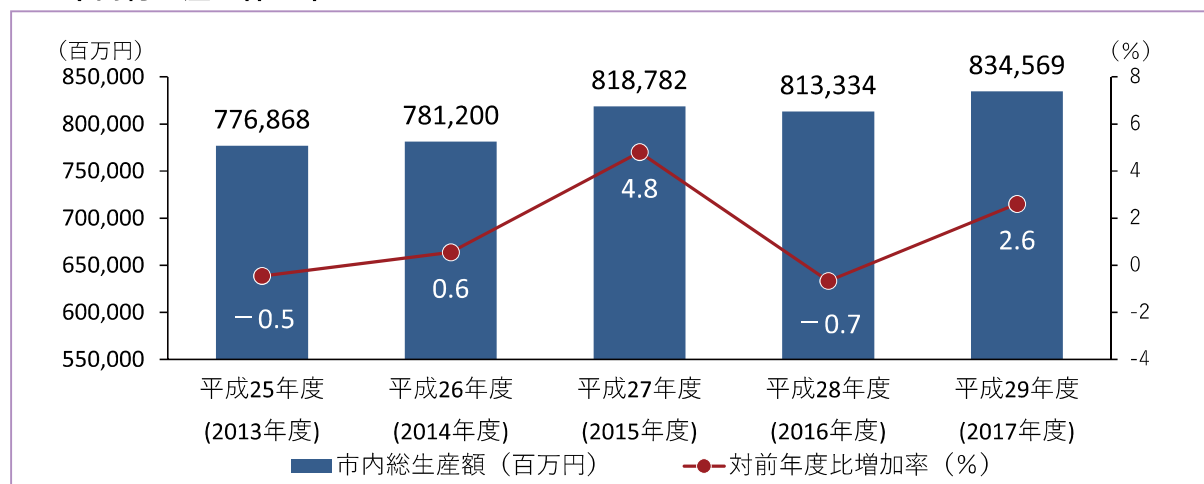
■関連計画

○越谷市産業振興ビジョン(2010年度～)

課題

- 経済・産業構造の変化に対応した新たな指針を明確に示し、地域社会を支える産業の活性化が求められています。
- 新しい働き方の実現へ向けて、ICT導入に取り組む事業者への支援のほか、市民が身近で働ける場所の創出が求められています。
- 本市の産業を支える事業者や地域産業の持続的発展に向けて、地域が一体となった支援体制づくりや地域経済循環の促進が必要とされています。
- 新たな産業育成に向けては、その担い手となる創業者等に対して、円滑な創業が実現できるよう、きめ細やかな支援が求められています。
- 魅力ある商業の振興に向けては、商店街団体・商業者への支援や地域資源を活かしたにぎわい創出が必要とされています。
- 魅力ある工業の振興に向けては、伝統的地場産業などの技術伝承を含めた優れたものづくり技術への支援と新たな産業集積を視野に入れた、本市の地理的特性を活かした企業立地の促進が必要とされています。

■市内総生産の伸び率



資料：平成29年度埼玉県市町村経済計算を基に作成

5-1 地域社会を支える産業の活性化を図る

■ 施策の方向性

511 地域産業の持続的発展を支援する

- 経済・産業構造の変化に対応した新たな産業活性化の指針をつくります。
- 商工会議所等と連携し、経営に関する相談・支援を実施することで、中小企業者の経営基盤の安定・強化を図ります。
- 制度融資をはじめとする各種支援策により、事業者の安定した成長発展を図ります。
- 住宅・店舗改修に関する消費喚起により地域経済の活性化を図ります。

【具体的な取組み】

- 事業者支援の充実
- 地域の経済基盤の強化

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
経営等に関する相談・支援件数	年間4,288件	年間4,200件以上
〔説明〕 専門家や商工団体が市内事業所等に対して行う相談・支援について、年間4,200件以上を目標とする。		
住宅・店舗の改修を行った総工事金額	—	年間8,500万円
〔説明〕 市の制度を活用して住宅・店舗の改修を行った工事金額の合計（経済波及効果の合計）について、年間8,500万円を目標とする。		

512 新たな産業を育成する

- 新たに事業を開始しようとする創業希望者や創業後間もない事業者に対し、創業相談やセミナー、補助金等による支援を実施することで、円滑な創業を促進します。
- 商工会議所や民間事業者等の支援機関との情報共有・連携強化により、地域が一体となった創業支援体制づくりを推進します。また、本市の特長や地域資源を活かした新たな産業・人材を育成し、活力にあふれる産業の育成を図ります。

【具体的な取組み】

- 起業・創業活動の支援

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
市の支援を受けて創業した件数	年間29件	年間20件以上
〔説明〕 市の支援（相談、セミナー、補助金等）を受けて創業した件数について、年間20件以上を目標とする。		

513 魅力ある商業の振興を図る

- 商店街団体等が実施する商店街のにぎわいを創出する事業や個店の魅力を向上させる事業を支援するほか、消費者が安心して商店街を利用できるよう整備した街路灯や防犯カメラの維持管理に関する支援に努めます。
- まちなかの地域資源を活用した商業イベント等を支援することにより、魅力ある商業の振興を図ります。

【具体的な取組み】

- 商店街・事業者の支援
- 中心的な商業拠点の魅力向上

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
商店街活性化推進事業の新規事業数	累計34事業	累計46事業
〔説明〕商店街団体等が新たに実施した事業について、年間2事業の増加とし、累計46事業を目標とする。		
空き店舗活用数	累計26件	累計44件
〔説明〕商店街内の空き店舗が活用された件数について、年間3件の増加とし、累計44件を目標とする。		

514 魅力ある工業の振興を図る

- 優れたものづくり企業の成長に向けて、広域的な販路開拓等への取組みを支援することで、魅力あるものづくり産業の活性化を図ります。また、古くから続く伝統的地場産業の魅力を発信するとともに、技術の伝承等に向けた取組みを支援します。
- 住工混在の解消や既存事業所の事業拡大、市外からの新たな企業立地を目指すため、荻島地区をはじめとし、本市の地理的特性を活かした産業用地の創出を推進します。

【具体的な取組み】

- ものづくり産業の支援
- 企業立地の促進

指標名	現状値(令和元年度)	目標値
企業立地相談件数	—	累計20件
〔説明〕市内・市外からの企業立地に関する問い合わせについて、年間4件の増加とし、累計20件を目標とする。		

技術伝承や優れたものづくり技術を支援します

〔越谷だるま〕



5-2 魅力と活力でライフスタイルを豊かにする

■めざす姿（5年後の状態）

地域の個性や優位性が魅力や活力となり、まちの総合力が高まるとともに、経済が循環している

食や景観等の地域の個性をまちの魅力として発信することで、地域への愛着や誇りを醸成し、市民生活の質の向上を目指します。

さらに、市民一人ひとりのライフスタイルにある価値や幸せを共感としてプロモーションし、都市イメージの向上および都市ブランドの構築に取り組み、まちの総合力を高めます。

また、豊かな水辺空間や祭り・イベントなどの地域の強みを観光商材として活用し、にぎわいの創出による地域内の経済循環を目指します。

現状

- 食に焦点をあてた「こしがや愛されグルメ発信事業」や地域で暮らす市民のライフスタイルをテーマにした「都市イメージ向上事業」を実施するなど市の魅力を発掘・編集して、市内および首都圏に向けて発信しています。
- 市民の愛着や誇りに明確につながる発信や都市ブランドの確立には至っていません。
- 観光協会等と連携し、南越谷阿波踊り、田んぼアートおよび花火大会の開催を支援するなど地域のにぎわいを創出するとともに、観光振興に関する包括連携協定を締結した、株式会社JTBのノウハウを活かし、首都近郊にあることを強みとした都市型観光を推進しています。
- 観光産業として、集客力や消費喚起力のある資源が不足しています。



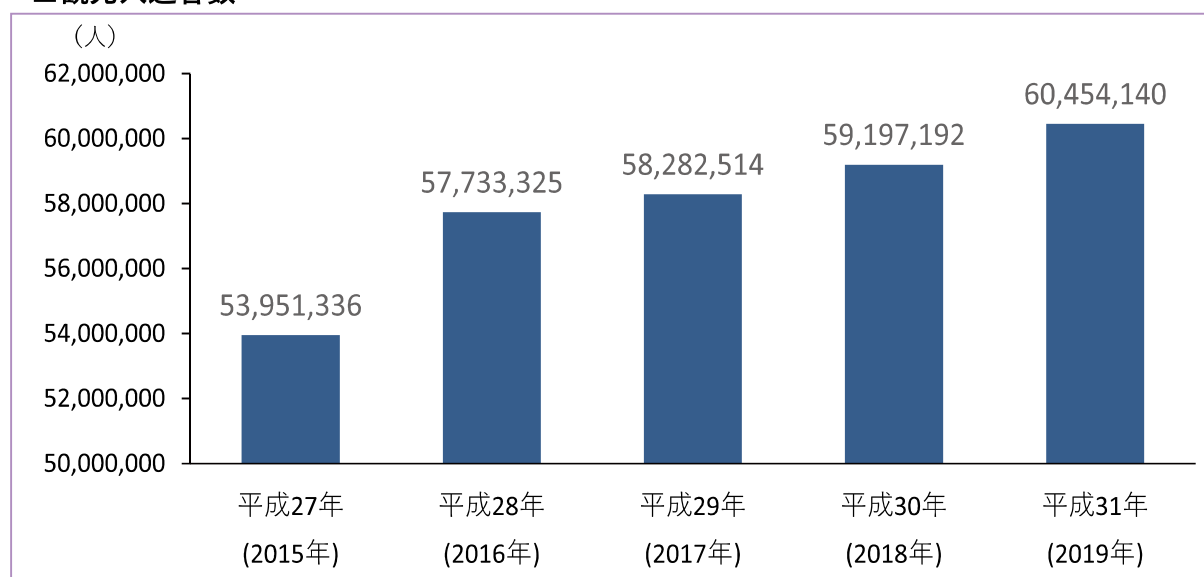
■めざす姿に関連する達成指標

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
越谷市に愛着があると回答した市民の割合	73.9%	80%
〔説明〕 市政世論調査における「越谷市に対して、どのくらい愛着があるか」という項目で、「愛着がある」と回答した割合について、80%を目標とする。		
観光入込客数	年間 6,045万4,140人	年間 6,200万人
〔説明〕 市内の観光スポットや観光イベント等に訪れた観光入込客数について、年間6,200万人を目標とする。 ※観光入込客数…観光等を目的に非日常利用の多い地点やイベント等に訪れた客の数をいう。ただし、観光政策上特に重要な地点、イベント等は非日常利用の割合は問わない。		

課題

- 社会経済構造が大きく変化し、地域の存在意義や活力の低下、地域経済の低迷が懸念されています。
- まちの個性やライフスタイル・文化などを磨きあげ、魅力として発掘・編集・発信するとともに、ブランディングすることでまちの総合力を高めていく必要があります。
- 観光によるにぎわいの創出を経済的視点で捉え、多様化するニーズ・マーケットに対応した観光商材を戦略的に提供していくことが求められています。

■観光入込客数



資料：経済振興課調べ（各年1月1日現在）

5-2 魅力と活力でライフスタイルを豊かにする

■施策の方向性

521 地域の魅力の発信と都市のブランドの構築でまちの総合力を高める

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> □食や景観等のまちの個性を発掘・編集し地域の魅力を発信します。 □暮らしのなかにある市民の幸せやまちと市民のかかわりについて、共感をテーマに都市のブランドの構築を図ります。 □首都圏（東京圏）の若い世代をターゲットに交流の拡大や定住の促進を目指すシティプロモーションを展開します。 | <p>【具体的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の魅力の発信 ○都市のブランドの構築 ○首都圏へのプロモーション |
|--|---|

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
SNSを活用したプロモーションの件数	累計2事業	累計8事業
〔説明〕 インスタグラム等を活用した地域の魅力等を発信する事業について、累計8事業を目標とする。		
プロモーションコンテンツ制作数	累計 4コンテンツ	累計 16コンテンツ
〔説明〕 都市ブランドの構築等を目的として制作するプロモーションコンテンツ（冊子類および映像）について、累計16コンテンツを目標とする。		

522 にぎわいを創出し地域経済の循環を促進する

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> □地域の優位性を観光商材とし、人を呼び込み、交流人口の拡大による経済の循環と活性化を図ります。 □多様化、細分化する観光マーケットのなかで、ターゲットを明確にし、戦略的に観光情報を発信します。 | <p>【具体的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集客・交流を図る観光の推進 ○観光情報の効果的な発信 |
|---|--|

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
水辺のにぎわいに関する新たなプロジェクト創出数	—	累計1プロジェクト
〔説明〕 大相模調節池周辺や葛西用水ウッドデッキ等の水辺を活かした新たなプロジェクトについて、累計1プロジェクトを目標とする。		
観光物産拠点施設でのイベント・フェア等の開催数	年間12回	年間16回
〔説明〕 「ガーヤちゃんの蔵屋敷」におけるイベント・フェアの開催について、年間16回を目標とする。		



毎年大勢の見物客が訪れる夏の風物詩
〔南越谷阿波踊り〕



大相模調節池を幻想的に彩る冬の風物詩
〔こしがやイルミネイク〕

5-3 持続的に農業が行われる環境をつくる

■めざす姿（5年後の状態）

高付加価値で高収益な農業経営と農地の保全・活用が 図られ、農業や農地の必要性が市民へ理解されている

首都近郊に位置し、周囲に大勢の消費者を抱えているなどの本市農業の強みを活かした、高付加価値で高収益な農業の展開を支援し、農業経営の安定化を図ります。

また、まとまりのある優良な農地を有する地域を中心に、経営規模の拡大や効率的な農業生産を目指す、担い手への農地の利用集積を推進します。

高品質な農産物を生産する、確かな技術を有する意欲的な農業従事者の確保・育成などにより、持続的に農業が行われる環境をつくります。

さらに、農業に対する市民理解の向上を図るため、市民や地域が農業や農地の魅力とその多面的機能を理解し、支えあいながら共有の財産として後世に引き継ぎます。

現状

- 農業従事者のうち70歳以上が半数近くを占め高齢化が顕著になり、農業従事者数は減少の一途をたどっています。また、都市化による農地の減少や営農環境の悪化、農産物価格の低迷など、農業を取り巻く環境は厳しさを増しています。
- 古くから米に加え、くわいや太郎兵衛もち、山東菜などの伝統的な特産品の生産技術が受け継がれているほか、県内でも上位の収穫量を誇る小松菜や枝豆など、良質な農産物が数多く生産されています。また、「越谷いちごタウン」をはじめとする観光農園の増加や越谷ねぎのブランド化など、新たな取組みも増えてきました。
- 農地面積は過去50年間で約3分の1にまで減少しているものの、依然として市内の東西には水田を中心に優良な農地が残されています。
- 農業水利施設や農道などの農業生産基盤は、過去に整備されてから一定の期間が経過し、その多くが補修・更新などの老朽化対策を必要としています。



■めざす姿に関連する達成指標

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
市内観光農園の来園者数	年間 9万3,185人	年間11万8,000人
〔説明〕市内12か所の観光農園の来園者について、年間11万8千人を目標とする。		
地場農産物の認知度	22.2~68.9% (平均45.7%) (平成30年度)	各項目を平均して 3%の増加 (平均48.7%)
〔説明〕市政世論調査における「越谷の農業特産物である知っているものはなにか」という項目で、「くわい、ねぎ、いちご、小松菜、山東菜、太郎兵衛もち」の認知度について、各項目を平均して3%の増加を目標とする。		

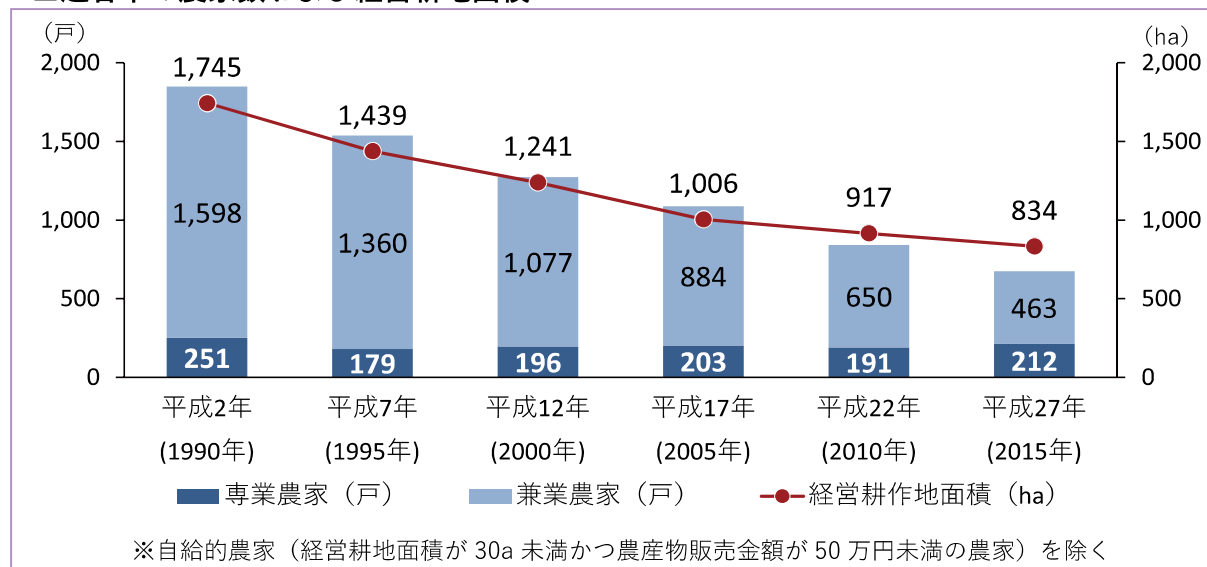
■関連計画

- 第3次越谷市都市農業推進基本計画(2021~2030年度)

課題

- 農業従事者の高齢化や後継者不足が進むなか、高収益で持続的な農業の実現と貴重な財産・資源である農地を保全していくためには、計画的かつ効果的な農業施策が求められています。
- 農業や農地は農産物を生産するだけでなく、保水・遊水機能による水害の防止や、大気の浄化、景観形成など、多面的な役割を担っていることから、将来にわたり適切に維持していく必要があります。

■越谷市の農家数および経営耕地面積



資料：農林業センサス(各年2月1日現在)を基に作成

5-3 持続的に農業が行われる環境をつくる

■ 施策の方向性

531 越谷農業の強みを活かした農業経営を追求する

- 首都近郊に位置し、周囲に大勢の消費者を抱えている越谷市の地理的優位性を活かし、高付加価値を目指す持続的な農業生産体制を支援するとともに、新たな農産物販路の開拓や加工品の開発、観光農園の展開などの支援に努めます。
- 農産物の流通・発信拠点の充実を図ります。
- 農産物直売所や学校給食での農産物の利用拡大により、さらなる地産地消を推進します。

【具体的な取組み】

- 持続的な農業生産力の強化
- 「儲かる」農業のための経営支援
- 都市農業の推進拠点整備
- 地産地消の推進

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
集団的いちご観光農園の整備件数	累計1か所	累計2か所
〔説明〕「越谷農業振興地域整備計画書」に基づき整備した、集団的いちご観光農園第1工区に引き続き、農園の拡充を図るため、第2工区の整備を目標とする。		

532 立地特性に応じて農地を保全・活用する

- 優良な農地について、農地利用集積に努めます。
- 地域における話し合いを推進し、農地活用や担い手の確保について検討を行うことで、各地域の特性に応じた農地の保全策を検討・推進します。
- 老朽化が進む農業水利施設などの補修・更新を計画的に推進します。
- 市民による農業や農地の多面的機能の理解に努めます。

【具体的な取組み】

- 農地利用集積の推進
- 農地の維持・保全
- 農業生産基盤の整備
- 農あるまちづくりの推進

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
農地利用集積地域数	累計4地域	累計6地域
〔説明〕農地の保全・有効活用を目的として実施した農地利用の集積・集約化が行われた地域について、累計6地域を目標とする。		

533 持続的に農業経営を担う人材を育成する

- 越谷農業を支える人材について、これまでの実績を活かしながら、さらなる人材の確保に努めます。新規就農者の確保と育成については、研修制度をさらに充実させることに加え、生活支援もあわせた制度の検討に努めます。
- 越谷農業を牽引する人材を重点的に支援するための制度の充実、多様な労働力として非農業者の活用を促進、今後の担い手となる企業の参入についても推進を図ります。

【具体的な取組み】

- 新規就農者の確保と育成
- 越谷農業を牽引する人材への支援
- 企業参入の推進
- 多様な労働力の活用

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
新規就農者・農業後継者研修制度修了者数	累計10人	累計15人
〔説明〕市の代表的な特産物の栽培技術を継承する研修制度修了者について、累計15人を目標とする。		

534 消費者が農業を支える仕組みをつくる

- 本市の農業・農産物の価値を広く伝えるためのプロモーションの強化を図ります。
- 市民や消費者が農業を支える仕組みをつくるため、イベントの実施や農業体験を通じて、シビックプライドの醸成に努めます。
- 学校教育等での農業理解の促進を図ります。

【具体的な取組み】

- 越谷農業の発信力強化
- 市民理解の促進

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
市外における越谷農業のPR活動回数	年間1回	年間2回
〔説明〕越谷農業の市外におけるPR活動への参加について、年間2回を目標とする。		

持続的な農業生産力の強化を図ります
〔越谷産いちごとストロングベリーちゃん〕



5-4 だれもがいきいきと働ける地域社会をつくる

■めざす姿(5年後の状態)

働きたい市民が就業し、安心して働き続けられる

就業を希望するすべての市民が就業におすびつくよう、地域の関係機関との連携を強化しながら、それぞれの役割にあった就業支援に努めます。また、安心していきいきと働くことができるよう、職業能力の向上や勤労者福祉の充実を図ります。

現状

- 市内事業所の総従業者数の9割以上が30人未満の事業所に勤める中小企業従事者です。また、市内中小企業を産業別にみると卸売・小売業が多く、次いで飲食等のサービス業、製造業となっています。
- 雇用環境は就業意識の変化や働き方の多様化、人口減少・少子高齢化・AIの導入など、社会情勢の急激な変化により複雑化しており、先行きを見通すことは困難な状況となっています。





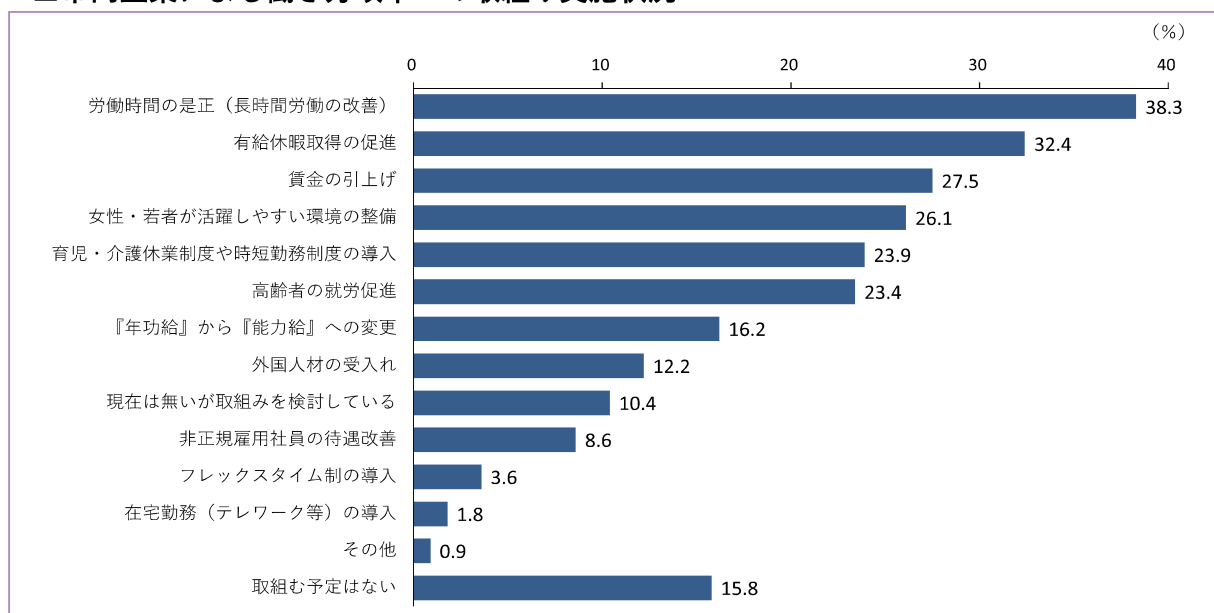
■めざす姿に関連する達成指標

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
女性・高齢者の従業員比率	女性 41.6% 高齢者 14.2% (平成30年度)	女性 50% 高齢者 20%
〔説明〕労働実態調査*における「雇用形態別の従業員数および年齢構成」の項目で、市内企業の従業員の割合について、女性50%、高齢者20%を目標とする。		
働き方改革への取組みを実施している企業の割合	84.2% (平成30年度)	90%
〔説明〕労働実態調査*における「働き方改革への取組み」の項目で、働き方改革への取組みを実施している企業の割合について、90%を目標とする。 *労働実態調査…市内事業所の労働条件や雇用環境等を把握するため、概ね3年に一度実施する調査。		

課題

- 社会情勢の変化に対応すべく、若年者、女性、高齢者等さまざまな就業希望者に対応した就業支援が必要となっています。
- 女性や高齢者の社会進出はさらに進んでいくと考えられ、生産年齢人口が減少していくなかで働き手としての活躍が求められています。
- 就業支援だけでなく勤労者のキャリア形成につながる人材育成と、職業能力の向上を図る取組みとともに、安心していきいきと働くことができる労働環境と、豊かな生活のための勤労者福祉の充実が求められています。

■市内企業による働き方改革への取組み実施状況



資料：平成30年度越谷市労働実態調査を基に作成

5-4 だれもがいきいきと働ける地域社会をつくる

■ 施策の方向性

541 就業支援の充実と労働環境の向上を図る

- 就業希望者や勤労者の能力向上とキャリア形成につなげるため、各種セミナー等を実施します。
- 高齢者が就業を通じて自己の生きがいの充実などが図れるよう、関係機関の取組みを支援します。
- 労働環境の実態把握に努めるとともに、勤労者の相談事業の充実と勤労者福祉の向上を図ります。

【具体的な取組み】

- 就業支援の充実
- 勤労者福祉の推進

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
若年者等就業支援事業における就職決定率	37.8%	55%
〔説明〕 若年者等就業支援事業における相談終了者に占める就職決定者の割合について、55%を目標とする。		



就業支援の充実を図ります

〔若年者等就職支援事業における相談のようす〕